

# 第1回定例会

3名の議員が町政全般にわたり理事者の考えを質しました。

・一般質問①

## 一般質問



佐藤 昭男 議員

### 今後の除雪体制について

【質問】

現在の除雪体制については、除雪センター職員の指示で、重機の運転業務や除雪業務を委託により、町道や公共施設等の除雪を行っておりますが、現在の除雪センターの正職員は1名しかおらず、その1名の職員も定年退職まで4年程度となっていることから、今後の除雪体制として除雪センター職員を新たに採用し、現在の体制を維持しながら行っていくのか、それとも全て民間委託として行うのか伺います。

【答弁】(町長)

現在の町の除雪体制は、数年前から現場部門の見直しを進めていまして、職員が減っている中、担い手を民間へ少



町道除雪・維持管理の拠点となる除雪センター

しずつ移行しているところであります。また、夏場の町道の維持管理も徐々に民間へ移行しているのが現状です。除雪を初めとする町道維持管理業務、その指示系統については、今後も町がしっかりと

管理できるような職員配置体制を堅持し、指示体系の部分については町が行い、実行部隊は民間企業が担う体制を構築したいと考えています。除雪作業は、免許さえあればすぐにできるといってもありません。技術もさることながらやはり経験が必要で、多くの経験と技能を有する職員は少なくなりますが、残された期間で若い民間の担い手に技術を継承し、また民間が培った技術なり、ノウハウを取り入れながら、他町村にも引けをとらないような除雪体制がしっかりとできるように今後も取り組んでまいりたいと考えています。

除雪は全てを民間委託に

していくのか!

町長へ指示は町が行い、実行は民間が

行う体制を構築したい。

議会を傍聴してみませんか!!

第2回定例会は6月に開催されます

詳しくは議会事務局にお尋ねください



# 第1回定例会

・一般質問②



但木早苗議員

自治体消滅論が言われる中で  
町長が目指す町づくりとは！

町長、未来を担う若者に魅力的な町の  
バトンを渡すのが使命と考えています。

“住んでいてよかった、  
住み続けたい”と思われる

町づくりについて

ながら未来永劫豊かな農山漁  
村として残していきたいならば  
ならないと言っています。

ここで改めて、住民の危機感  
をおおるような自治体消滅論  
に対する町長の考えと町長の  
目指すまちづくりを詳しく進め  
ていくのかを伺います。

【答弁】(町長)

まず町づくりですが、少子  
高齢化からくる大きな行政課  
題を一つひとつ解決し、未来  
の佐呂間町を担う若者に魅力  
的な町のバトンを渡すのが私  
の使命と考えています。

本町は、1次産業の振興  
あつての町です。ここをしっ  
かり守り、教育や福祉ばかり  
ではなく、現在町内では農地

【質問】  
この事については、2期目  
の所信表明を受け質問をした  
ことがあります。町長は「将  
来に夢や希望の明かりがとも  
り、小せむしもきりりと夢輝く  
まちづくりができたものと実  
感している」と答弁をしていま  
す。しかし、昨年5月、こうし  
た自治体の頑張りを見無視する  
かのように、2040年までに  
806の自治体が消滅の恐れ  
ありという見出しが躍りまし  
た。この自治体消滅論の狙いは  
道州制であります。

町長は27年度執行方針の中  
で、活力ある地域づくりを進め

が不足する程の若手農業者増  
加が顕著です。このように今  
ある地域の農業基盤の安定・  
発展が将来に希望をもてるま

小田医院跡地の

活用について

【質問】

クリニックも11月24日



解体されさら地になった小田医院跡

オープン予定と報道され、順調  
に建設も進んでいると思われ  
ますが、小田医院跡地の活用  
について伺います。

【答弁】(町長)

まず一つはしっかりとクリ  
ニックを完成させ、そこに全  
勢力を傾注したいとの考えで  
す。その後において、昨年も答  
弁をしましたが、高齢者生活  
支援ハウス等第4期総合計画  
で定めた後期実施計画におい  
て、高齢者の低家賃集合住宅  
の整備を今後検討していきたい  
と考えています。

【質問】

昨年の答弁の時に並行して  
検討していくとあったので、ク  
リニックもめどが立ったので、  
並行して立てた計画をお聞き  
したかったのですが、これから  
の検討になるというように、  
しつうか。

そうであればシェアハウス  
的なものを望む声もあります。  
計画の中に盛り込んでいただけ  
ばと考えています。

【答弁】(町長)

27年、28年に具体的な構想  
を含めて考える中で、行政は  
かりでなく各福祉施設や議員  
の皆さんとしっかりと討議を  
し、検討していただきたいと  
考えています。

# 第1回定例会

・一般質問③



三田 真美 議員

## 高校支援について

【質問】 地元の高校である佐呂間高校は、4月より地域キャンパス校になります。地元の中学校からの進学率が今年度も70%を超えていることを考えると、生徒や保護者の負担軽減や魅力ある学校づくりのために更なる支援が必要だと思えます。高校への給食提供は要望が少なくこれからの課題となっていますが、今後の支援についてはどのような方向性について伺います。

【答弁】(町長) 佐呂間高校は北海道の適正配置計画の対象でしたが、地理的な状況や地元進学率の高さにより、4月から地域キャンパス校として存続されることとなり安堵しています。

地域キャンパス校になった高校への支援は！  
町長、生徒や保護者、高校にどのような支援が必要か十分協議したい。

【質問】 「地域キャンパス校」他の高校への通学が困難な地域で、かつ地元からの進学率が高い高校を地域キャンパス校としてセンター校(北見柏陽高校)からの出張授業や連携した教育活動を行う制度です。

【サテライト授業】 予備校や学習塾などの授業を通信衛星などで取り入れた授業

「スクールネット」 インターネットを經由した双方向通信の遠隔授業

【質問】 佐呂間高校は、4月より地域キャンパス校になります。地元の中学校からの進学率が今年度も70%を超えていることを考えると、生徒や保護者の負担軽減や魅力ある学校づくりのために更なる支援が必要だと思えます。高校への給食提供は要望が少なくこれからの課題となっていますが、今後の支援についてはどのような方向性について伺います。

また、教職員の数が減少することから、一人一人にあった進路指導などを行うために中学校のように支援員などの配置、町独自の職員の雇用など人的支援や大手予備校サテライト授業の活用、スクールネットの整備、各種検定試験料や模擬試験の助成など進路に向け



今後も支援を継続する佐呂間高校

【質問】(町長) 支援については、今まで同様にパーマ市への短期留学助成、通学の足の確保などを続けていきたいと考えています。が、キャンパス校1年目であるため、生徒や保護者、高校にとってどのような支援が必要なのかも含め十分協議して取り進めていきたいと思っております。

【答弁】(教育長) 人的支援については、現在考えていません。

## 少子化対策について

【質問】 安心して子供を産み育てることはもとより、子供の数を増やしていく努力も必要だと考えます。今年度については、給食費の値上げ分を少子化対策の一環として町で負担するとのことがありました。町としても人口の減少を少しでも歯止めをかける必要がある

【質問】(町長) 子供が欲しくてもできない時の不妊治療ですが、東川町では道の助成とは別に第1子に限り5年間治療費の助成を行っています。本町の現状と町独自の助成を行う考えはあるのか伺います。

【答弁】(保健福祉課長) 道の助成については、申請が保健所であり確認したところ、特定不妊治療の申請はこの3、4年で年に1〜2人の回答をいただいています。

【答弁】(町長) 不妊治療については、前向きにできるような対応を図っていきたいと思います。